

## 「粟井町」 安心して暮らせるまちづくりに向けて

粟井地区自主防災会  
会長 安藤 正則

### 1. 粟井町の概要

粟井町は、観音寺市の東南周辺に位置し、南北に長い地形で、南は雲辺寺山を境に徳島県に接し、東は三豊市山本町、西は市内大野原町と隣り合っています。令和 4 年 4 月現在人口 1,569 人、戸数 659 戸、高齢化率約 38%と少子高齢化が進んでいる長閑な町です。町の中程にある粟井神社境内からは、三豊市、善通寺市、琴平町、まんのう町の山並みを東にして、北は瀬戸内海の燧灘遠景を望むことができ、晴れた日には広島県の福山市や尾道市の島々が望めて、風光明媚を自負できるところです。

町の南正面に標高 312m の菩提山、その右手に 36 万㎡の水甕岩鍋池に続き標高 137m の小高い藤目山があります。その山頂には中世の時代 240 年に亘り地域を守護した藤目城がありました。その山麓に粟井神社が鎮座しています。ここは讃岐式内三大社のうち的一座として崇敬を集めています。約 20 年前に建替えられた社殿は、奉賛に尽力した町民の誇りでもあります。

### 2. 「まちづくり」への取組み

#### (1) 「まつり」づくり

地元自治会から、粟井神社境内に、万葉集にも歌われるあじさいを植えてはどうかと提案がありました。神社の賛同を得て、昭和 59 年度に色彩鮮やかなあじさい 500 株を植えました。その後も株を増やしていき三年目の昭和 62 年約 1,000 株になるのを機に「あじさい祭り」を開催しました。

折しもこの年は地元粟井小学校の開校百周年の年にもなり、関係者のもとより、町民にとっても地域の融和と発展への願いを一層高める大きな契機となりました。

この機会に立ち上げた「あじさい祭り」は、ほぼ手探りの状況から、各種団体が分担して、準備から祭り当日の運営までを総力で取り組みました。真に町民の手作りによる「まつり」となりました。



あじさい開花

「まつり」には、各種団体役員等約 160 名による実行委員会を組織し、企画委員会並びに実行委員会において運営方法、催事内容が計画されます。地域の人々に楽しんでもらうことを基本に、保育所の園児、小学校の児童の習字・図画作品を展示、町内有志によるカラオケ大会、お茶会によるお接待で歩みだしました。



あじさい祭り

1 回目の成功により地域の人々の思い入れ は次第に強くなり、以後、あじさいを背景にモデル撮影会を行うなど、写真愛好家に好評を得ました。

また、この祭のために町民から募集した「栗井音頭」が完成し、これに合わせて地域の婦人方による総踊りが披露されました。町民が「あじさい祭り」に関わることの喜びを感じてもらえるための上手な演出であり、多くの世代の関心が得られました。

回を重ねるなかで催しの変遷はありましたが、地域の人々に「まつり」を堪能してもらうことが何よりです。

「まつり」を継続させるために肝心なことは、毎年見事なあじさいを咲かせることです。その為には、天候の良否とともに、いかに適切な管理を行っているかです。



花摘み



除草作業

神社境内には約 3,000 株のあじさいが植わっていますが、古いものだと 35 年を超えています。必要な植え替えは行っても、これ以上株を増やすことは好ましくない状況です。これを維持するため次のような管理を行っています。

植樹（補植）、水遣り、除草作業（全員）、花摘み（全員）、剪定、害虫防除作業、施肥

これらの作業は、自治会長を含む 3 団体の他実行委員会により年間を通して行っています。

## （2）「まちづくり」の成果

今年で 36 回になる粟井あじさい祭りは、あじさいの宮栗井神社とともに、県下でも知られるところとなりました。

咲き始めから約 1 ヶ月は、その多彩な花を目当てに訪れる人たちも多く、年ごとに賑わっています。

「まつり」の催しはコロナ禍のなか三年間中止となりましたが、開花具合は、世話をする人達の大きな関心事です。来場者から好評価を得た時は、奉仕作業が報われて、継続してきたことが誇りに思え、大きな成果となります。

住民の手作りから始まった「まつり」は、今後も地域の融和と発展を望む町民の協力により継続していくことと思います。

少子高齢化が進んでいるなかにあっても、「あじさい祭り」で活気にあふれたまちづくりを体現するために、今後もこのまつりを町民がしっかりと支えていきます。

## 3. 「自主防災活動」への取組み

### （1）災害への意識

粟井町内では、災害時に懸念される幾つかの要因があります。

町内南部の粟井川上流部には、大きなため池が 3 池あります。上流部から貯水量 45 万 $\text{m}^3$ の逆瀬池、26 万 $\text{m}^3$ の粟井新池、36 万 $\text{m}^3$ の岩鍋池が粟井川で連なっており、ため池ハザードマップに示される浸水想定区域は、下流の岩鍋池から約 6 km先の JR 予讃線観音寺駅近くまで達します。

また、町内の南側山間部の奥谷自治会は、県道粟井観音寺線沿いに民家が点在していますが、県道を挟んで自治会全域に亘り土砂災害特別警戒、警戒区域（急傾斜地の崩壊）、同左（土石流）、同左（地すべり）区域が点在しています。

この地区では、平成 16 年に大雨洪水警報の発令下、幾カ所も急傾斜地の崩壊、土石流、地すべり等が発生して、県道、市道、林道が一時寸断される事態となりました。その折には、観音寺市消防団粟井分団及び奥谷地区自治消防団（自主防災組織）が懸命の安否確認、復旧作業等を行うなど、真摯な活動がありました。

また、平成 30 年の西日本豪雨の際は、当地区の住民約 80 名が避難する事態になりました。そこでも、地元自治消防団は家々を回り避難を促すとともに、移動困難者を避難所まで送り届けてくれて、避難後の留守宅に心配事が無いように一軒ごと見回りをしてくれたのです。万全を期す行動でした。

このほか、町内には 10 万㎡以下のため池が多数あり、それぞれの浸水想定区域を併せると、町内の半分近くがその区域に該当します。災害に対する認識は、山間部に限らず町内全域で共通の心構えが必要です。

それでも、地形上の違いから、町内においても住民の危機意識には温度差があります。

## (2) 防災訓練の実施

このような事情のなか、平成 24 年には、地区社会福祉協議会において、町内でも防災訓練を行おうという機運が熟成されてきました。そこで、熱心に取り組んでいる市内豊浜町に資機材等の調達について教示を受けるとともに、12 月に行われた防災訓練に参加し、町民の訓練に対する積極的な姿勢に、奮起を促されました。

平成 25 年には、当時観音寺市内の各所で防災活動の研修会に招かれていた岩崎会長の快諾を得て、8 月に自主防災研修会を開催しました。観音寺市危機管理課の協力も得て、地区社協の主な役員を対象に、防災意識の向上と地域防災の充実を図るため、「かがわ自主ぼう連絡協議会」より経験豊富なスタッフ（岩崎会長、松岡参与）を招いて、自主防災組織の運営・活動及び防災訓練に向けた取組み等の研修会を開催しました。

そして、訓練実施の 40 日前に、川西地区自主防災会、自治会協議会、消防団粟井分団、市危機管理課により、事前準備、実施要領について細かく協議しました。

平成 26 年 3 月、地元地区社協主催では初めての防災訓練を実施しました。訓練は、「バケツリレー」、「家屋倒壊救出訓練」、「ロープワーク」、「心肺蘇生・AED」、「応急手当・担架搬送訓練」をかがわ自主ぼう連絡協議会（川西地区自主防災会）に指導していただきました。地元消防団粟井分団員が各訓練の補助につくとともに、「土のう積み訓練」は指導してくれました。



バケツリレー



ロープワーク

さらに、広域消防署の指導による「起震車体験」もできて充実した訓練となりました。

また、「炊出し訓練」は、民生・児童委員、ボランティアを中心に地区社協各種女性委員が担当しました。参加者、スタッフ分を賄えるよう前日から準備をしてもらいました。メニューは、一人当たりむすび1個と豚汁1杯の簡素なもので、むすびが小さいとか、豚汁の注ぎ分けに偏りがあり後の人にはほとんど具がない汁になっていました。苦笑する経験でした。

アンケートの意見・感想欄には、体験できて良かった、分って良かった、継続することが望ましい等好意的な意見が多数ありました。



応急手当



家屋倒壊救出



心肺蘇生・AED



炊出し

防災訓練も「まちづくり」と同様に、関わること、経験することで、何が必要か、どうすればよいのかが共有できます。「あじさい祭り」で醸成された町の発展のための協力が、災害時にも活かされるためには継続することが肝要です。

その後、年1回の防災訓練ではありますが、訓練内容も様々に工夫をしながら、令和元年度まで7回実施することができました。それもかがわ自主ぼう連絡協議会（川西地区自主防災会）の熱意ある指導がなければ得られない成果でした。



次に、防災訓練の実施については、地区全体の訓練及び単位自主防災組織ごとの訓練を計画することです。3年度は、制約のある中、小学校児童と保護者を対象にした短時間の訓練を計画しましたが、コロナ禍の対策が懸念され中止となりました。

次に、自主防災活動の充実強化として、指定避難場所の開設、運営に協力する、非常時持出品の啓発と、備蓄物資等の確保に努める、単位自主防毎に防災・減災研修を行うことです。

なお、自主防災会の当面の活動として「災害・避難カード」の作成に取り組むことにしました。その取り掛かりとして、防災アドバイザーを招いての勉強会を開催し、カード作成への進め方等について認識を深めました。

これからは、自治会毎にまち歩きを行い、避難経路上で安全な箇所、危険な箇所、役に立つ箇所等を確認して防災マップを作成することにしました。

#### (4) 今後の取組み

令和4年10月までで、幹事会委員10名と単位組織からの委員により、町内を一通り歩いて各自治会内の状況が概ね見えてきました。今後は、自主防災会委員が自治会毎に防災マップの素案を作成する計画です。それから、素案を基に、自治会内でワークショップを開催して、意見を反映したマップを仕上げていく計画です。

これとは別に、昨年中止になった小学校児童及び保護者対象の防災訓練を、1月に自主防災会委員の指導で行うように計画しています。

今月は香川県総合防災訓練を紹介したいと思います。

## 香川県総合防災訓練の実施状況

- ・日程 令和4年10月23日(日)8:00集合 訓練9:00~12:00
- ・会場 香川県消防学校(高松市生島町)
- ・共催 仲多度郡まんのう町(自治体)
- ・かがわ自主ぼうの役割としては「まんのう町自主防災会」が主体となって実施する「住民の避難行動訓練」並びに「避難所設営訓練」の指導と支援を行います。

参加人員として「高松地区」20名「丸亀地区」21名「坂出地区」1名、「さぬき地区」1名「東かがわ地区」1名、更に丸亀市企業の海外研修生9名のべ53名が参加しました。又、川西地区自主防災会からは資機材の展示を行い、7tトラックと軽トラック3台によって発電機類と照明機器並びにエンジンチェンソー類を運び込み行いました。



## 編集後記

11月の防災減災の輪は、粟井地区自主防災会会長 安藤様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。